

単元名 箏の基本的な奏法を身に付けよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 箏の音色と奏法との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するための右手の使い方や縦譜の読み方などの技能を身に付けることができる。
 (2) 箏の音色と奏法との関わりを理解し、右手の使い方や縦譜の読み方などの技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫することができる。
 (3) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

標準的な展開例

10260207_001

【教材名】「練習曲 1」「練習曲 2」「さくらさくら」(P. 36～P. 40)

【準備等】タブレット

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 箏の各部の名称や弦名、角爪と丸爪の違い、平調子の調弦を理解し、奏法を身に付けて「練習曲 1」と「練習曲 2」を表現する。 ★箏を弾いてみよう。 ○P. 36「各部の名称」や「弦名」を実際の箏で確認し、平調子の響きを聴き取る。 ○P. 37「爪」を参照し実際に爪をはめ、右手の使い方を理解しながら表現する。 ○P. 38「姿勢とかまえ方」「親指による基本的な奏法」を参照し、右手の使い方を確認する。 ○「練習曲 1」「練習曲 2」を表現する。</p> <p>2 縦譜の読み方を理解し、「さくらさくら」の曲想を感じ取りながら右手の使い方を身に付けて演奏する。 ★「さくらさくら」を弾こう。 ○P. 40「さくらさくら」の縦譜の読み方を理解し、右手の親指を使って表現する。 ○少人数で「さくらさくら」を演奏し、確認し合ったことや表現の際に注意したことをワークシートにまとめる。</p>	<p>・タブレットでまなびリンクを活用して、平調子の音を確認させる。 ・タブレットでまなびリンクを活用して、右手の使い方を確認させる。 ・演奏する際の気をつける点をワークシートにまとめさせてもよい。 【評】箏の演奏の仕方に気をつけて「練習曲 1」と「練習曲 2」を表現する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>【評】弦の弾き方や姿勢などを工夫し、「さくらさくら」を表現する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】主体的・協働的に学習に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

箏の各部の名称、柱の立て方、爪の付け方、生田流と山田流の違いを理解し、右手の親指による基本的な奏法を身に付ける。「練習曲 1」「練習曲 2」では、かまえ方、爪の付け方、親指の動きなどを、まなびリンクを活用し確かめながら演奏する。また、二つの練習曲を合わせて演奏し、平調子の響きを味わいながら基本的な奏法を身に付ける。「さくらさくら」では、縦譜の読み方を理解し曲想を感じ取りながら表現を工夫する。

【共通事項】音色・リズム・速度・旋律